

コートジボワール

Republic of Cote d'Ivoire

	2014年	2015年	2016年
①人口:2,430万人(2016年)			
②面積:32万2,462km ²			
③1人当たりGDP:1,459米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	8.8	9.2	8.8
⑤消費者物価上昇率(%)	0.4	1.2	0.7
⑥失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支(100万CFAフラン)	1,914,800	1,874,000	1,868,800
⑧経常収支(100万CFAフラン)	252,200	△119,100	△225,900
⑨外貨準備高(100万米ドル、 期末値)	403	340	349
⑩対外債務残高(グロス) (100万CFAフラン、期末値)	4,785,378	5,857,821	6,142,191
⑪為替レート(1米ドルにつき、 CFAフラン、期末値)	540.28	602.51	622.29

〔注〕⑦⑧の2015年、③～⑤⑦⑧の2016年は推計値、⑦は国際収支ベース(財のみ)

〔出所〕①②④⑤⑩:経済財政省、③⑨⑪IMF(IFS)、⑦⑧:西アフリカ諸国中央銀行(国際収支統計)

■前年に引き続き高い成長

2016年の経済は、大規模なインフラ投資や公共事業など政府の景気刺激策と、民間投資や個人消費の下支えで内需が拡大し、成長を後押しした。一方で輸出が伸び悩み、成長率は高水準ながらも当初見通しの9.3%を下回る8.8%にとどまった。政府は2020年までに中所得国入りを目指す国家開発計画で、工業化と民間セクター開発を柱とする構造改革を推進している。今後も民需を牽引役に8%台の高成長維持を予測している。一方、2016年末から主要産業であるカカオの国際市況低迷が財政を圧迫しており、その長期化による経済成長への影響が懸念される。

産業別では、農業(輸出産品生産)と石油精製が不振であったものの、建設、エネルギー、製造業、鉱業、電気通信、運輸、小売り・流通、観光、金融部門が総じて好調であった。需要項目別では、民間消費は就業者数や世帯収入の増加に支えられ、9.6%の伸びとなった。また、インフレ率は3%以下となり目標圏内で安定して推移している。政府最終消費支出は7.8%増で、社会・経済インフラ整備、農業開発、産業振興、雇用促進などの優先課題への支出の重点配分と財政健全化に向けた支出の効率化が反映された。民間投資は16.5%増で、製造業、サービス業での生産設備の更新や拡張に加え、住宅や商業施

表1 コートジボワールの需要項目別実質GDP成長率

(単位:%)

	2014年	2015年	2016年
実質GDP成長率	8.8	9.2	8.8
民間最終消費支出	10.2	7.7	9.6
政府最終消費支出	10.2	15.2	7.8
国内総固定資本形成	18.9	17.6	17.1
財貨・サービスの輸出	4.5	8.6	△5.9
財貨・サービスの輸入	0.3	13.9	1.0

〔注〕2016年は暫定値。

〔出所〕経済財政省

設建設のほか、鉱物資源開発を中心に対内直接投資も増えた。公共投資は、インフラ整備などの進展で18.0%増となり、民間投資と共に5年連続の2桁成長となった。

■輸出入とも石油プラットフォームの反動で減少

2016年は、輸出が前年比13.7%減の6兆4,044億CFAフラン(以下、FCFA)、輸入が17.5%減の5兆888億FCFAとなった。石油開発の進展状況によって毎年大きく変動する石油プラットフォームと呼ばれる特殊用途設備の再輸出と輸入が減少したことが主な押し下げ要因となった。貿易黒字は、輸入の減少が輸出のそれを上回ったため、4.7%増の1兆3,157億FCFAに拡大した。

品目別では、輸出総額の28.4%を占めるカカオ豆が、天候不順による減産が響き数量ベースで17.9%減少したことに加え、国際価格が第4四半期から下落したため金額ベースでも13.4%減となり輸出を押し下げた。カカオ調整品(構成比14.4%)は、数量ベースで7.6%減少したものの、輸出価格が上昇したため金額ベースで1.0%減にとどまった。原油は、産出量の増加を受け数量ベースで33.5%増と、油価下落による目減りを補ったため金額ベースでも7.3%増加し、構成比も5.4%に拡大した。石油製品は、コートジボワール石油精製会社(SIR)の採算悪化による減産と国際市況の低迷で31.2%減少、構成比も6.9%に低下した。金は、鉱山開発の進展による生産増加と国際価格の上昇が相まって8.5%増、構成比も7.6%に拡大した。カシューナッツは生産減少を反映し数量ベースで6.8%減となったが、国際価格の高騰により金額ベースでは9.9%増となり、構成比も7.3%に拡大した。天然ゴムは、生産の増加が国際市況の低迷による価格の目減りを補い9.9%増となり、構成比は5.1%となった。これら上位7品目で輸出総額の75%を占める。

表2 コートジボワールの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万 CFAフラン、%)

	2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(その他含む、FOB)	7,423,760	6,404,412	100.0	△13.7
カカオ豆	2,099,744	1,818,438	28.4	△13.4
カカオ調製品	930,910	921,691	14.4	△1.0
石油製品	639,107	439,721	6.9	△31.2
金	446,953	484,816	7.6	8.5
カシューナッツ	427,352	469,546	7.3	9.9
原油	322,172	345,521	5.4	7.3
天然ゴム	299,782	329,341	5.1	9.9
輸入合計(その他含む、CIF)	6,167,733	5,088,754	100.0	△17.5
原油	897,472	607,204	11.9	△32.3
一般機械	547,161	471,774	9.3	△13.8
鉄鋼	389,466	248,860	4.9	△36.1
コメ	290,838	309,420	6.1	6.4
プラスチック製品	266,652	237,164	4.7	△11.1
輸送機械	258,925	196,466	3.9	△24.1
魚介類	230,393	228,773	4.5	△0.7

[注] 2016年の数値は暫定値。

[出所] コートジボワール税関総局

最大の輸入品目である原油は、石油精製所の減産に加え、油価下落により数量、金額ベース共に減少し、構成比も11.9%に低下した。一般機械は、数量ベースで増加したが、輸入価格の低下により金額ベースで減少し、構成比は9.3%となった。コメは、数量、金額とも大幅に増加し、構成比は6.1%となった。電気機器、鉄鋼・その製品、医薬品、プラスチック製品、魚介類、輸送機械、石油製品、化学品は、数量ベースでは軒並み増加したが、輸入価格の低下により、大半が金額ベースで減少した。国別では、輸出は、オランダ向けがカカオ豆・調製品を中心に前年比11.7%減少したが、構成比11.6%を占め依然として最大の相手国である。次いで米国(構成比8.9%)、ベルギー(6.2%)、フランス(5.5%)と続く。欧州向け輸出が減少する中、スイス(4.6%)が金を中心に8.8%、スペイン(3.5%)が原油等を中心に28.0%、それぞれ増加した。ガーナ(4.8%)、マリ(4.4%)、ブルキナファソ(4.0%)など周辺国向けは陸路輸送の改善効果で、石油製品等を中心に増加した。

輸入では、中国が前年比23.5%増加し、構成比17.4%と、従来の最大相手国であるナイジェリアを抜いて初めてトップになった。品目は電気機器、輸送機械、医療機器、精密機器、鉄鋼医薬品、プラスチック製品、肥料など多岐に渡っている。フランス(構成比13.3%)と米国(3.8%)は機械機器や医薬品、ナイジェリア(11.4%)は原油が不振で、大幅な輸入減となった。一方、インド(4.4%)、ドイツ(3.2%)、スペイン(3.2%)、タイ(3.1%)からの輸入は増加した。

■ 地域拠点として大型投資が相次ぐ

対内投資では、資源やエネルギー、インフラ開発、食品

や消費財分野への投資が活発化している。コートジボワール投資促進センター(CEPICI)によると、2016年の認可ベースの投資(国内資本含む。鉱物資源・石油・ガス探査と開発、不動産、金融・保険サービス部門を除く。商業、運輸は5億FCFA以上の案件のみが対象)は、件数は225件、金額は前年比0.3%増の6,718億FCFAとなった。業種別では、建設関連が構成比25.2%を占め最大で、次いでICT、その他製造業、農産品加工、輸送・倉庫となっている。国別では、フランス(構成比12.1%)が最大で、次いでナイジェリア(10.3%)、英国(8.3%)、レバノン(8.1%)、モーリシャス(7.1%)、モロッコ(6.2%)と続き、投資元は36カ国・地域となった。最近ではアフリカ、中東が目立ち、投資元国・地域が多様化している。

外国企業の動向をみると資源開発では、オフフィール・エナジー(英国)、トータル(フランス)、イタリア炭化水素公社(ENI)がそれぞれ、新たな鉱区で開発権を取得し、石油開発に着手した。エンデバー・マイニング(英国)は、新たな金鉱山で開発権を取得し、精錬工場の建設などの投資計画を発表した。エネルギー部門では、フランスのエンジー(旧GOFスエズ・フランス)やモロッコのノヴァ・パワーが太陽光発電所建設、フランスEDFがバイオマス発電所建設などの計画を発表した。またイスラエル系スターエナジーが石炭火力発電事業、フランスエラノヴ・グループが新たにガス発電事業に参入する。製造業では、アルジェリア系のセヴィタルが、搾油、食料油脂・飼料製造、稲作、精米などへの投資計画を発表。アビジャン市内のヨブゴン工業団地には、セネガルのシムパがプラスチック加工工場を、フランスラファージュ・ホルシムがセメント工場を建設中のほか、モロッコ寝具メーカー大手ドリドルが製造工場を稼働させた。チュニジアの大手医薬品サイフ(SAIPH)は、グランバッサムのフリーゾーンで医薬品製造に進出する。またドイツ電化製品大手カイザー、米国キャタピラ、ドイツ医薬品大手メルクがコートジボワールに拠点を設置し、アフリカ市場で事業を拡大していく方針だ。小売業では、レバノン系スーパーチェーン大手プロズマが全国展開するほか、スペインのシティディア(Citydia)がフランチャイズ契約で進出した。近年、フランス系スーパーが相次いで出店しているほか、モロッコのラベル・ヴィがコートジボワールの小売り大手CDCIに資本参加している。豊田通商の仏子会社であるCFAOは、通販サイト「Africashop」を立ち上げた。金融・保険では、南アフリカ共和国のスタンダード銀行が銀行免許、モロッコのアトランタ保険グループが損害保険事業認可を取得した。

投資促進に向け、用地不足が阻害要因の一つとなっていたが、工業団地の新規整備が進み、賃借料の値下げや申請手続きの簡素化が図られた。一方、人件費の上昇、

表3 コートジボワールの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万CFAフラン、%)

	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(その他含む、FOB)	3,407	1,643	100.0	△51.8
カカオ調製品	2,415	1,369	83.3	△43.3
カカオ豆	734	190	11.6	△74.1
輸入合計(その他含む、CIF)	129,196	122,329	100.0	△5.3
乗用車	63,324	60,232	49.2	△4.9
乗用車以外の車両・部品	16,125	15,114	12.4	△6.3
機械機器	11,502	11,784	9.6	2.5
セメント用クリンカー	8,601	9,180	7.5	6.7
ゴム製品	5,841	3,243	2.7	△44.5
スラグサンド	5,647	5,140	4.2	△9.0

[注] 2016年の数値は暫定値。

[出所] コートジボワール税関総局

電力料金の再値上げなどで、生産コストが上昇している。

■対日貿易は輸出入とも減少

2016年の対日貿易は、輸出が16億4,300万FCFA(前年比51.8%減)、輸入が1,223億2,900万FCFA(5.3%減)となった。輸出の8割強を占めるカカオ調整品と、1割強を占めるカカオ豆はそれぞれ、43.3%と74.1%の大幅減となった。減少の要因としては、日本で2014年1月以降、残留農薬が検出されたコートジボワール産カカオが全量検査の対象となったことを受け、対日輸出に限定した船積み前検査の厳格化で船積みが滞ったことがあるとみられる。日本からの輸入は工業製品が8割を超え、数量ベースでは22.4%増加したものの、輸入価格は全般に低下した。主要品目のうちディーゼルエンジンなど機械機器(構成比9.6%、前年比2.5%増)、セメント用クリンカー(7.5%、6.7%増)などは増加した。一方、乗用車(49.2%、4.9%減)などは、数量ベースで増加したものの、輸入価格の低下により金額ベースでは減少した。車両・部品(12.4%、6.3%減)、タイヤなどゴム製品(2.7%、44.5%減)などは金額、数量とも減少した。他方、コメ(2.0%、9.8%増)と、イワシやサバなど冷凍魚(1.2%、3.8%増)は、近年、増加傾向にある。

コートジボワールでは、上記CFAOのほか、商社3社、食品1社、農業機械1社、資源開発1社の計7社が日系企業として活動している。これら進出企業以外でも、日本企業によるインフラ整備案件や、農産品や建設資材、輸送機器、化学品などの販路開拓、既存の代理店との関係強化や、新たなビジネスパートナー発掘など往来が活発になってきている。日本の円借款も再開され、地域経済統合が進む西アフリカの拠点として日本企業の関心が高まりつつある。